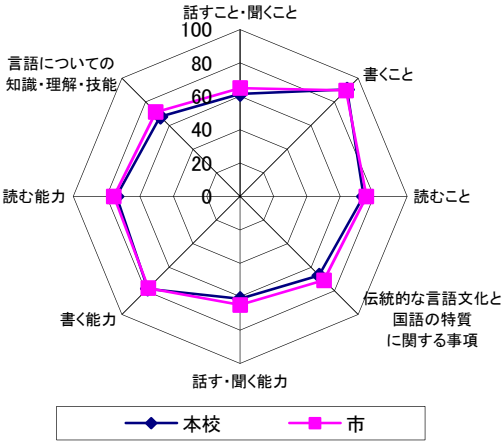


宇都宮市立岡本小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	61.3	64.9	69.8
	書くこと	90.5	89.8	81.9
	読むこと	74.0	75.6	75.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.9	71.0	75.0
観点別	話す・聞く能力	61.3	64.9	69.8
	書く能力	78.2	77.7	73.7
	読む能力	74.0	75.6	75.1
	言語についての知識・理解・技能	67.5	71.4	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

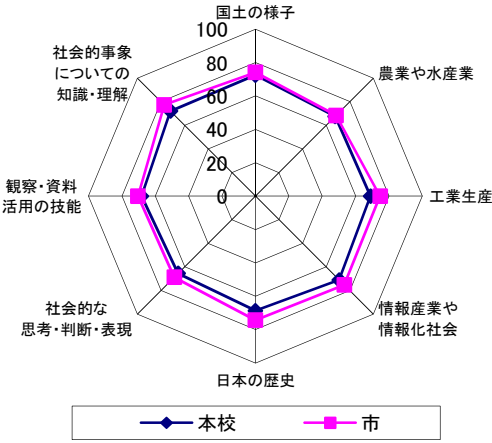
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均正答率をやや下回っている。 ○話し手の意図を考えながら話し合いを聞くことの設問は正答率がやや高い。話を聞かときのポイントを明らかにし、意識させながら話し合いを行うことにより、身に付いてきたと考えられる。 ●司会者として、計画的に話合う方法を問う設問についての正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学習活動全体において、これからも話の中心や構成に気を付けて聞くように指導し、話し手の考えをとらえられるようにするとともに、自分が話すときにも構成を意識して話すようにさせる。 ・司会を行うときには、話し合いの目的を意識させ、話し手の要点をメモさせたり、見通しをもたせて進行させたりすることで計画的に話し合いを進めることができるようにする。
書くこと	市の平均正答率を上回っている。正答率も高い。 ○作文における正答率が高い。長さや段落構成、意見と理由を区別して書くなどの条件を守り、文章を書くことができています。 ●与えられた情報を読み取り、適切な内容を補って文章を書く設問についての正答率が低い。	・長さや段落構成などの与えられた条件の中で文章を書いたり、自分の意見とその理由を区別して書いたりする活動を繰り返し、書く力の更なる向上を図っていく。 ・複数の情報の中から必要な情報を読み取り、自分の意見を書くときには、その根拠となった部分を振り返らせ、資料の中の言葉を使ってまとめさせることで、定着を図っていく。
読むこと	市の平均正答率をやや下回っている。 ○注意点が設定された場面の描写や登場人物の心情を読み取る設問や段落相互の関係を読み取る設問の正答率が高い。登場人物の行いを整理したり、接続語の使い方を例文を使って確認したりすることで、身に付いてきたと考えられる。 ●純粋に登場人物の心情や場面の描写を叙述を味わいながら読む設問は正答率が低めである。	・登場人物の気持ちを読み取るときには、必ず根拠となる部分の叙述を明らかにさせたり、情景描写からも考えさせたりする。 ・朝の読書だけではなく、家庭学習などにおいても読書を推奨し、多くの物語に触れさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率を下回っている。 ○漢字を読む設問は正答率が高めである。音読を毎日宿題にしていたこと、授業で読む時間を確保していることにより身に付いてきたと考えられる。 ●漢字を書く設問は正答率が低い。反復練習が定着している児童とそうでない児童の差が大きい。熟語の構成や尊敬語の使い方の理解を問う設問が正答率が低い。	・授業や朝の学習、家庭学習において、現学年の漢字の読み書きを練習させるとともに、前学年の配当漢字も計画的に練習させ、漢字を読んだり書いたりする力の定着を図る。また、習った漢字は使って書くという習慣を身に付けさせていく。 ・敬語については、日常会話の中で教師が取り上げて紹介したり、同じ言葉を尊敬語に直す活動を行ったりして、定着を図っていく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	72.5	74.1	72.5
	農業や水産業	67.5	68.4	61.6
	工業生産	69.0	74.7	68.2
	情報産業や情報化社会	71.0	75.3	74.0
	日本の歴史	68.7	74.4	69.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	65.5	68.7	64.2
	観察・資料活用 の技能	68.3	70.3	68.1
	社会的事象についての知識・理解	72.0	77.3	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

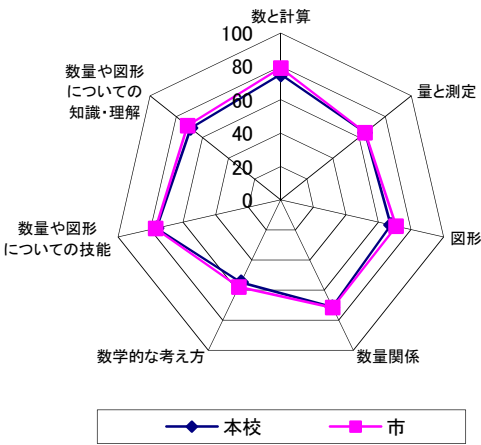
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	市の平均正答率をやや下回っている。 ○日本を通る台風の数を示したグラフについて把握する問題での正答率が特に高く、十分理解できていると言える。 ●日本の国土や位置について問う問題の正答率が低い。	・重要事項を復習するとともに、自分たちの生活と環境との関わりについて、新聞の記事やテレビのニュースなどを紹介したり、日常的に地図帳を活用させたりすることなどによって、国土や自然に対する関心を高める。
農業や水産業	正答率は市の平均よりやや低いが、参考値より上回っている。 ○品種改良について資料を基に判断したり、食料生産に関する地図を読み取ったりする設問は正答率が市の平均よりも高い。 ●日本の食料生産について資料を基に現状を考察する設問の正答率が低い。	・資料集などを活用し、資料やグラフの見方についてさらに理解を深める。 ・資料から読み取れたことを考察できるように、日本の農・水産業についてニュースなどを見るよう促し現状の理解を図る。
工業生産	市の平均正答率を下回っている。 ○自動車生産工程についての理解はできており、高い正答率である。 ●日本の工業地帯や工業地域の特色について、地図を読み取る設問は正答率が低い。	・資料集などを活用し、資料やグラフの見方についてさらに理解を深める。 ・日本の産業についての学習を、プリント等で復習し、定着を図りたい。
情報産業や情報化社会	市の平均正答率を下回っている。 ○情報の利用の仕方について、判断する設問は、高めの正答率である。情報の利用の仕方については、直接生活に結びついていることから考えやすかったと思われる。 ●情報ネットワークについて考察する設問は正答率が低い。	・これから身近な生活に結びつけて、具体的イメージを持たせながら学習を行っていく。 ・自ら考え表現することが苦手なので、学習したことについて考察し、表現する学習の流れを作っていく。
日本の歴史	市の平均正答率を下回っている。 ○鎌倉時代の始まりについての理解がやや高い。修学旅行先なので、時間をかけて調べ学習ができたためと考えられる。資料を読み取る設問は正答率が高めである。資料やデジタル教科書を活用することにより、より具体的にイメージ化することができたと考えられる。 ●年表や資料を読み取り考えたり表現したりする設問の正答率が低い。	・各時代の主な人物や出来事などについて確認するとともに、その人物が行ったことや出来事が、世の中や人々の生活をどのように変化させたのかについても、あわせて確認させ、理解を深める。またそれらの因果関係について考え表現させるよう学習の仕方を工夫する。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.1	79.0	78.9
	量と測定	64.6	64.6	66.2
	図形	67.6	70.9	77.8
	数量関係	71.2	71.6	66.6
観点別	数学的な考え方	54.8	57.8	54.8
	数量や図形についての技能	76.3	76.9	75.2
	数量や図形についての知識・理解	69.0	71.3	75.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

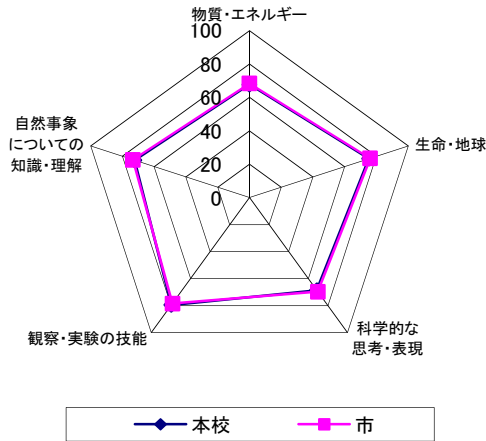
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	市の平均正答率をやや下回っている。 ○小数・分数の乗法や除法のほとんどの問題において80%近い正答率を示しており、計算する力は定着しているといえる。朝の学習や家庭学習等において繰り返し練習することで身に付いてきたと考えられる。 ●文章問題の式の意味を考える設問の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続き四則計算の基本的なやり方を復習する。正しく計算できるよう朝の学習や家庭学習において繰り返し練習し、定着を図る。 ・文章問題では、問題文にある数値の関係をとらえるために、図をかいたり、簡単な整数に置き換えて考えたりできるよう指導していく。
量と測定	市の平均正答率とほぼ同じである。 ○道のりを求める問題の正答率は高く、繰り返し練習問題に取り組んだ成果と言える。また、単位量あたりの値を求める式がどのような大きさを求める式かを説明する問題の正解率がやや高く、学習内容が身に付いている。 ●分速を時速に直す問題の正答率が低い。	・単位量あたりの大きさの学習では、線分図や図に表して課題を具体的に捉え、見通しを立てて解決できるようにする。 ・速さ・時間・道のりを求める公式を確認し、多くの問題に取り組ませることで定着を図る。また、速さの単位についても時間の関係を確認させることで理解を深めていく。
図形	市の平均正答率を下回っている。 ○線対称な図形の半分を作図する設問や合同な三角形の作図をする設問については正答率が高く、図形の作図についての理解は十分と言える。多角形の内角の和について答える問題も正答率が高い。 ●円の直径を元に円周を求める設問の正答率が低い。	・図形の持つ特徴を再確認し、具体物を使って操作する活動を通して定着を図る。 ・線対称や点対称な図形では、繰り返し作図させることによって対応する点についての理解を深める。 ・円の半径・直径と円周の長さの関係は、公式を使った問題を繰り返し解くことで、定着を図る。
数量関係	市の平均正答率とほぼ同じである。 ○比較関係をXとYを使って文字を使った式に表すことはおおむね身に付いている。 ●帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題は市の正答率を下回った。	・比較関係を文字式で表す問題は、問題を繰り返し解くことを今後も続ける。 ・帯グラフから割合を読み取る問題では、前学年の学習内容である百分率について復習するとともに、他教科等でも百分率で表された数値やグラフなどに着目させ、読み取らせることによって理解を深めていく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.7	68.3	68.1
	生命・地球	75.3	76.0	73.8
観点別	科学的な思考・表現	68.6	69.7	68.0
	観察・実験の技能	79.5	78.4	77.0
	自然事象についての知識・理解	72.4	73.4	73.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	市の平均正答率とほぼ同じである。 ○気体が溶けている水溶液を指摘する問題と、導線の巻き数を多くすると電磁石のはたらきが大きくなるかを問う設問についての正答率が高い。 ●水溶液の性質から何の水溶液かを指摘する問題での正答率が低い。また、閉じた空間でろうそくの火が消える理由を記述で答える問題の、正答率が低い。	○朝の学習や授業において復習する時間を確保し、さらなる定着を図っていく。また、授業でこれまでとつながりがある内容を学習するときには、これまでの学習の内容や実験方法などを想起させ、学習のつながりをもたせていく。 ・水溶液の性質とはたらきについては、重要事項を復習し、練習問題を解かせることによって定着を図る。 ・現象に対する説明を、自分のことばで説明できるように、実験の際の考察を書いて自分の言葉でまとめていく。
生命・地球	市の平均正答率とほぼ同じである。 ○月の見え方や資料の内容から月と太陽の位置の関係、動物の体のつくりとはたらきに関する問題の正答率が高い。 ●メダカの成長や、ふかしたばかりのメダカの栄養の取り方を問う問題の正答率が低い。	・授業の始めには、明確なめあてを示し、実験や観察の際にも意図や注意点を具体的に提示し、正しい手順で正確な結果を導き出せるようにする。また、考察についても、自分で考えたり話し合ったりして言葉でまとめる活動を多く取り入れていく。 ・メダカの成長については、図で理解させたり観察したことを自分でまとめることで知識の定着を図る。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの